〈喫煙室〉 〈喫煙室〉

不定期版 センチメンタル・ジャーニー…完

水戸市 (S37.4.1現在 世帯数 33 236 人口 145 332人
S54.4.1現在 世帯数 65 258 人口 210 404人)

昭和37年4月，水戸市立第一中学校の2年生に編入された。1学年に12学級もあり，確か11組だったと思う。

転居先になったのは元山町にあった社宅で，戦前の木造平屋建てであった。囲炉裏の切ってある4畳半と，6畳・8畳の3間に，風呂場と台所が一緒になった土間の様なものがついていた。庭は申し訳程度の巾で，家の長さだけ横にへばりついている。塀は，倒れかけた板塀で，それを植込みがかろうじて支えているといった按配であった。

そんな我が家にも，いつのまにやら野良猫が一匹住みついてしまった。黒と白のブチのめす猫で，滅法ケンカに強い。太い前足，食い千切られたらしい耳，するどい目付きで，小さな犬なら犬の方が逃げ出す程である。我が家でも猫や犬は嫌いではなく，今までにも何度か飼ったことがある。ただし名前はいつも同じで(要するに考えるのが面倒なのだ)，猫なら「タマ」，犬なら「ジロ」とつけていた。その前例からすれば，この猫も「タマ」となったのだろうが，あいにく欲しくて飼っている訳でもないし，特にエサを与えているのでもなく自活しているといった状態で，いわば我が家に素泊りしているということから，特に名前はつけずに，ただ単に「ネコ」と呼ぶことにいつのまにか決まってしまった。

この猫は食生活が豊かで，肉や魚はもちろんキューリからタクワンに至るまで，まんべんなく嗜んでいたようである。たまに鮎やハムを食べていたが，そういう時には必ず他の家から苦情を持ち込まれる。そんな時，「あれは野良猫である。従って我が家では一切関知しない」と答えるのが通例で，やがてそういう苦情も絶えてしまった。しかし猫の方は相変らず食べたいものを食べている様子で ギョーザなどをかじっている姿を見ると，どう考えても他の家から黙って頂いてきたとしか思えない。それでも我が家のものには決して手(?)をつけないところは見上げたもので，猫は猫なりに一本筋が通っていたようである。

元山町の家から2～3分歩くと，偕楽園の表門である。観梅の時に臨時の停車場から常磐神社の石段を昇り，入園で賑わうのは東門で，本当の正門ではない。正門は表門で，古めかしい黒い小さな門だから，見落とす人も多い。表門を入ってまっすぐ行けば，やがて左に竹林，右に杉林のうす暗い坂道を下ることになる。そこを抜けて右側にある石段を降りれば右側に吐玉泉がある。吐玉泉から道なりに歩き，左にそれて七曲りの坂を上がると好文亭の裏手に出るが，それずにそのまま南門の前を通って好文亭の前に出ることもできる。そこは芝生になっていて，その向こうに梅林が広がっている。電車を降りて，東門から入園した人は，門を入るとすぐ右手に梅林を見ることになってしまい，これではつまらない。やはり表門から入って，ぐるりとうす暗い園内を回り，梅の香りに誘われるように梅林に入っていく方が良い。

地元の人たちは，観梅シーズンには偕楽園に近よらない場合が多い。梅ではなく，人を見に行くことになりかねないからだが，それでもたまには行きたくなることがある。そんな時は，わざわざ人の帰った夕方や，平日に行くことにしているようだ。

昭和41年，水戸を離れ，以後2～3ヵ所転居をくり返したが，その後何やかにやとあり，現在は水戸に舞戻ってきている。昔住んだ元山町も年に一度くらいは通るけれど，あの家はとうに取り壊され，今は駐車場に変身してしまっている。そして例の猫の消息も不明である。

(伊藤 宰)